

# Life Design Focus

## 障害者スポーツ観戦への関心ー東京パラリンピックを4年後に控えて

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 研究開発室 水野 映子

### <東京パラリンピックに対する高い関心>

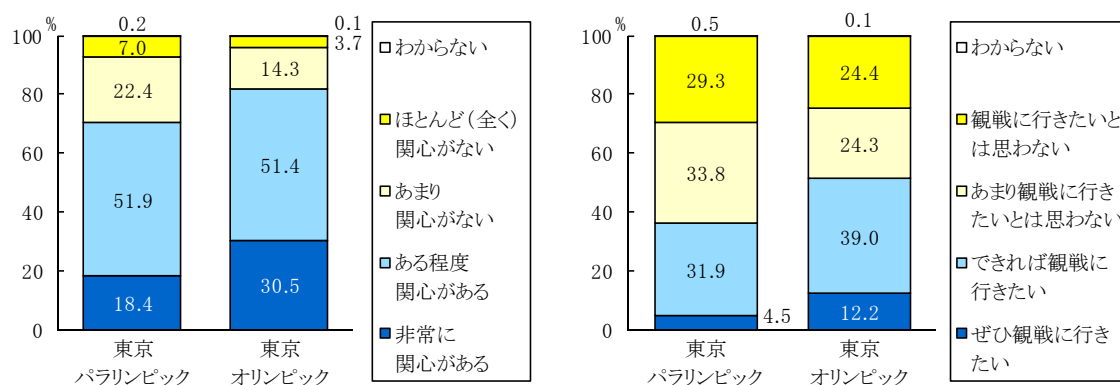
2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まで、あと4年余りとなった。今年、ブラジルのリオデジャネイロで夏季オリンピック・パラリンピックも開かれる。パラリンピックが話題になることは、かつてよりはるかに増えたが、オリンピックに比べればまだまだ少ない。そんな中、人々はパラリンピックの競技をはじめとする障害者スポーツに対し、どのような意識を持っているのだろうか。

内閣府が2015年6月に実施した調査によると、東京パラリンピックに関心がある（「非常に関心がある」＋「ある程度関心がある」）と答えた人の割合は70.3%にのぼる（図表1）。東京オリンピックに関心がある人の割合（81.9%）には十数ポイント及ばないが、東京パラリンピックに関心を寄せる人も少なくないといえる。

### <車いすバスケット・テニスなどの観戦を希望>

また同じ調査において、東京パラリンピックの観戦希望をたずねたところ、36.4%の人が観戦に行きたい（「ぜひ観戦に行きたい」＋「できれば観戦に行きたい」）と答えた（図表2）。この割合も東京オリンピックの観戦に行きたい人の割合（51.2%）よりは十数ポイント低いものの、3人に1人以上は東京パラリンピックの観戦希望を持っていることがわかる。

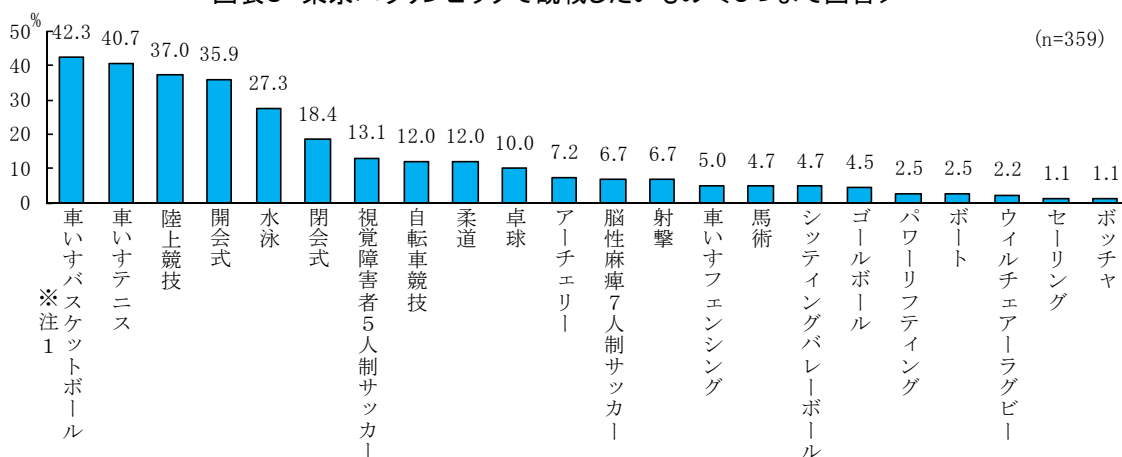
図表1 東京オリンピック・パラリンピックに対する関心 (n=1,873) 図表2 東京オリンピック・パラリンピックの観戦希望 (n=1,873)



資料：内閣府『東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査』2015年8月

次に、東京パラリンピックのどの競技の観戦希望が高いのかを、笹川スポーツ財団が2014年5～6月に実施した調査でみてみよう。20競技および開会式・閉会式の中で、チケットを購入して会場で直接観戦したいものをたずねた結果、「車いすバスケットボール」(42.3%)と「車いすテニス」(40.7%)が4割を超えた(図表3)。続いて、「陸上競技」(37.0%)と、「開会式」(35.9%)があがっている。

図表3 東京パラリンピックで観戦したいもの<5つまで回答>



注1：正式名称は「車椅子バスケットボール」だが、本稿では「車いすバスケットボール」と表記

注2：東京パラリンピックでチケットを購入して会場に行って直接観戦したいと答えた人に占める割合

資料：笹川スポーツ財団『スポーツライフ・データ2014—スポーツライフに関する調査報告書—』2014年12月

### <観戦されることが少ない障害者スポーツも>

では、パラリンピックの競技を含む障害者スポーツは、現状ではどの程度観戦されているのだろうか。東京パラリンピックの主な開催予定地である東京都が、都民に対して2014年10～11月に実施した調査によると、この1年間に障害者スポーツをスタジアム・体育館・沿道などで実際に観戦した人の割合はわずか2.2%であった(図表4)。この割合は、一般のスポーツをこの1年間に実際に観戦した人の割合が39.5%であった(図表省略)ことに比べてもかなり低い。

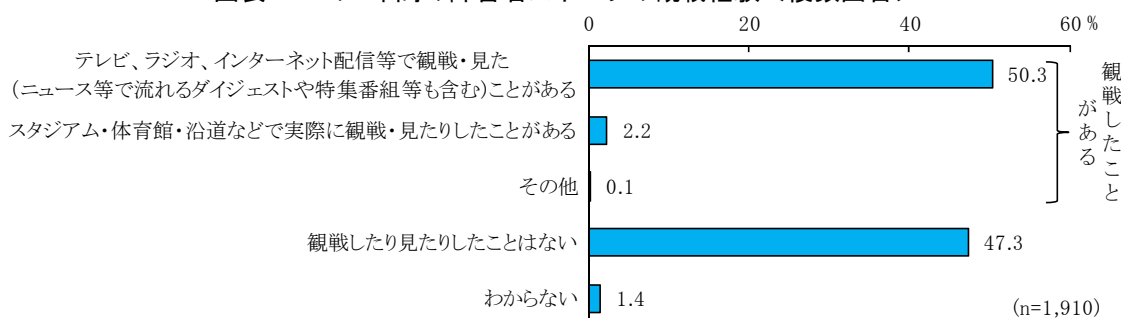
一方、障害者スポーツをテレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦した人の割合は50.3%と半数を超えた。ただし、この調査が実施される半年余り前の2014年3月には冬季パラリンピックが開催されたことや、一般のスポーツをテレビ・ラジオで観戦した人の割合は93.2%(図表省略)と大半を占めることを考慮に入れると、テレビ・ラジオ等を通じた障害者スポーツの観戦割合が高いとはいいがたい。また、障害者スポーツの試合そのものがテレビ等で中継されることは少ないため、約半数の人が障害者スポーツを「観戦した」「見た」ことがあるとはいっても、実際に視聴したのは短いニュース等の番組が多いのではないかと推測される。

図表5で観戦した障害者スポーツの競技をみると、「テニス」(66.0%)が突出しており、次が「陸上競技」(40.7%)、「バスケットボール」(36.4%)となっている。以

下、「サッカー、フットサル」「水泳競技」や、2014年の冬季パラリンピックにも登場した「アルペンスキー」「クロスカントリースキー」が続く。これら以外の競技を観戦した割合は、いずれも1割に満たない。障害者スポーツはそもそも観戦されている割合が低い上に、観戦される競技も一部にとどまっているといえる。

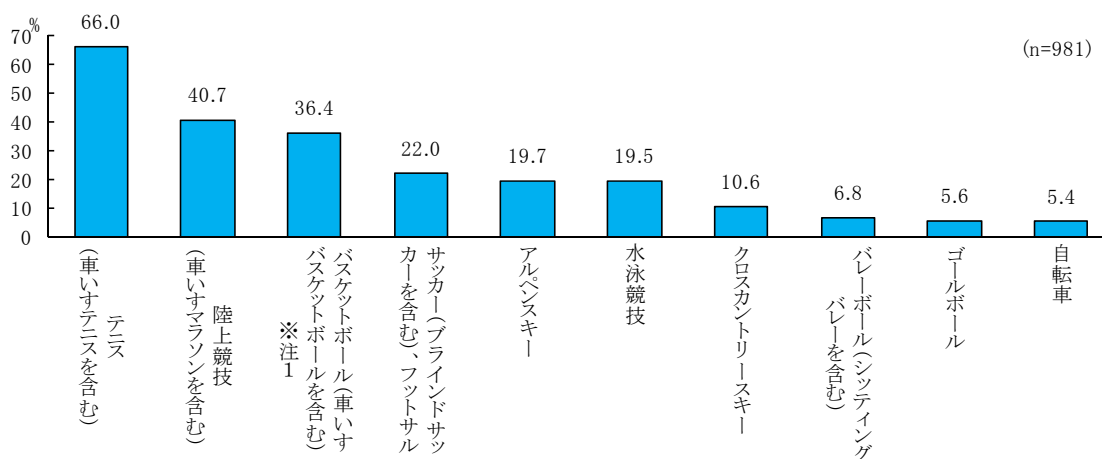
また、観戦者が比較的多かった「テニス」「陸上競技」「バスケットボール」などの競技は、東京パラリンピックで観戦したいと答えた人が多かった競技(前出の図表3)でもある。障害者スポーツをテレビ等で見た経験が、パラリンピックで実際に観戦したいという希望につながっているとも考えられる。

図表4 この1年間の障害者スポーツの観戦経験<複数回答>



資料：東京都『都民のスポーツ活動に関する世論調査』2015年2月

図表5 この1年間に観戦した障害者スポーツ(上位10項目を掲載)<複数回答>



注1：図表3の注1と同じ

注2：この1年間に障害者スポーツを観戦したことがある人が回答

資料：図表4と同じ

東京パラリンピックへの関心をさらに高めるためには、多様な障害者スポーツが人々に認知され、観戦されることが重要であろう。“オリンピックイヤー”である2016年を機に、パラリンピックの競技を含む障害者スポーツが、マスメディア等を通じて紹介・PRされたり中継されたりすることにより、より多くの人々の目に触れる機会が増えることを望みたい。

(みずの えいこ 上席主任研究員)